OSS COLUMN

オープンソース事情

連載開始にあたって

大谷　真
oya@info.shonan-it.ac.jp
湘南工科大学

比屋根　一雄
hiya@mri.co.jp
三菱総合研究所

オープンソースがソフトウェア科学に対して本質的なのかソフトウェア開発方法史の一局面にすぎないのかは別として，このところ，オープンソースソフトウェアがITビジネスに定着し，社会のITインフラを支える一部として不可欠な存在になりつつあるのは間違いない．一方で，オープンソースの活動が実際のところどう進んでいるのかは，意外に知られていない．これは，ボランタリな活動が多く積極的に情報発信されることが少ない，半完成のうちから公開活動に移るため外側からの状況把握が難しい，ベンダ製品のように体系的に宣伝されることが少ないなどの理由からだろう．かくいう筆者も，"知っていることは知っているが，知らないことは知らない" のが正直なところである．

この連載は日本国内を中心にon-goingなオープンソース活動をできるだけ広い範囲で読者に情報提供するのが目的である．多くの方々に登場いただき，確立した組織活動だけでなく，コミュニティ，さらにはもっとローカルな活動や若手の活動に至るまで紹介したいと考えている．読者の知見を広げるのに役立てば幸いである．

「オープンソース」とは何かについては，多くの議論があるが，すでに多くの書籍や記事があるのでそれらを参照していただきたい．本連載では，緩くは，ソースコードが公開されていて何らかのオープンプロセスの中で開発・保守がなされているもの，より厳密には，OSI（Open Source Initiative）の定義を満たすライセンスで公開されているものとしておく．必要に応じてそれぞれの回で議論いただく．

できるかぎり広い視野で連載を進めたいと考えているが，紙面の都合上，すべてのオープンソース活動を網羅することは不可能である．したがって，我がコミュニティではこんなすばらしい活動をしているのに紹介がなされないとのケースも多々生じるかもしれない．状況をご勘案のうえお許しいただきたい．

まずは比較的確立された組織の代表として，今回は民間組織の日本OSS推進フォーラム，次回はIPA（独立行政法人情報処理推進機構）のオープンソースソフトウェア・センターの紹介から連載を開始する．

（平成18年3月16日）